

強い農業継続の意識

去る昭和53年6月1日現在で、県下の農家世帯の協力を得て実施した農家意識調査の結果の概要は、次のとおりです。

1. 経営耕地面積の増減について

(1) 全県の傾向

調査期日3年前と比較して経営耕地面積はどのように変

図-1 経営耕地面積の増減(3年前との比較)

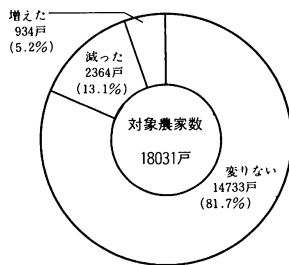


表-1 専業兼業別での志向

区 分	調査対象農家数		変り ない		増 え た		減 っ た	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
県 計	18031	100.0%	14733	81.7%	934	5.2%	2364	13.1%
専 業 農 家	3513	100.0	2838	80.8	365	10.4	310	8.8
第一種兼業農家	6271	100.0	5130	81.8	375	6.0	766	12.2
第二種兼業農家	8247	100.0	6765	82.0	194	2.4	1288	15.6

地域別での志向

表-2のとおり地域別にみると、県北地域では「変りない」が他の地域に比べて79.6%と低く、「増えた」が5.4%となり、「減った」が15.0%でやや高い。鹿行地域では、逆に他の地域より「変りない」が85.6%と高く、「増えた」も5.7%と高い。また「減った」は8.7%と一番低くなってい

表-2 地域別での志向

区 分	調査対象農家数		変り ない		増 え た		減 っ た	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
県 計	18031	100.0%	14733	81.7%	934	5.2%	2364	13.1%
県 北 地 域	6751	100.0	5377	79.6	362	5.4	1012	15.0
鹿 行 地 域	2198	100.0	1882	85.6	124	5.7	192	8.7
県 南 地 域	4907	100.0	3938	80.3	280	5.7	689	14.0
県 西 地 域	4175	100.0	3536	84.7	168	4.0	471	11.3

ったかについて、「変りない」、「増えた」、「減った」の3つに分けて聞いてみた。

結果は、図-1に表わしたように調査対象農家数(18031戸)に対し、「変りない」という農家が14733戸(81.7%)を占め、次いで「減った」という農家が2364戸(13.1%)で、「増えた」が934戸(5.2%)となっている。

専業兼業別での志向

表-1のとおり専業兼業別でみると、専業農家では、「変りない」が80.8%、「増えた」が10.4%、「減った」が8.8%となり、第一種兼業農家では、「変りない」が81.8%、「減った」が12.2%、「増えた」が6.0%、で第二種兼業農家では、「変りない」が82.0%、「減った」が15.6%、「増えた」が2.4%となった。また「増えた」農家と「減った」農家を比べてみると、専業農家では、「増えた」農家が多く、兼業農家では、「減った」農家が多くなっている。

る。県南地域では「変りない」80.3%、「減った」14.0%と他の地域に比べて県北地域に次いで低くなっている。また「増えた」は5.7%と鹿行地域と同じく高くなっている。県西地域では「変りない」84.7%、「増えた」が4.0%と他の地域に比べ低く、「減った」11.3%となっている。

(2) 「増えた」農家について

どのような理由によって「増えた」のかを「買入れ」、「借入れ」、「自己の転用」、「その他」の4つに分けて聞いてみた。

結果は、図-2に表わしたように「借入れ」が55.7%と多く、「買入れ」が19.6%、次いで「自己の転用」13.4%、「その他」11.3%となっている。

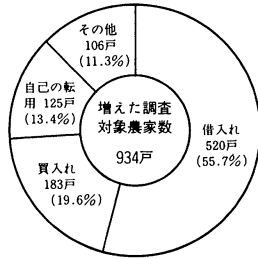
(3) 「減った」農家について

どのような理由によって「減った」のかを「売渡し」、「貸付け」、「他への転用」、「その他」の4つに分けて聞いてみた。

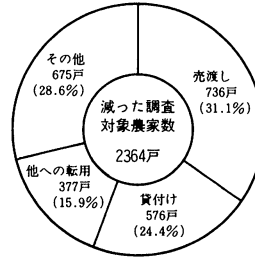
結果は、図-3に表わしたように、「売渡し」31.1%となり、「貸付け」24.4%、「その他」28.6%、「他への転用」15.9%の順となった。

昭和三十五年茨城県農家意識調査 (上)

図一 増えた理由



図二 減った理由



2. 陸田の保有と開田年について

(1) 全県での傾向

陸田の保有について、「陸田がない」、「陸田がある」の2つに分けて聞いてみた。

結果は、「陸田がない」14029戸(77.8%),「陸田がある」4002戸(22.2%)となっている。

專業兼業別陸田保有状況

專業兼業別でみると、表一3のとおり專業農家では、「陸田がない」74.0%、「陸田がある」26.0%となり、第1種兼業農家では、「陸田がない」が69.7%、「陸田がある」30.3%で、第2種兼業農家では、「陸田がない」85.6%、「陸田がある」が14.4%となった。

表一 專業兼業別陸田の保有状況

区分	調査対象農家数		陸田がない		陸田がある	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
県計	18031	100.0%	14029	77.8%	4002	22.2%
專業農家	3513	100.0	2601	74.0	912	26.0
第一種兼業農家	6271	100.0	4371	69.7	1900	30.3
第二種兼業農家	8247	100.0	7057	85.6	1190	14.4

地域別陸田保有状況

地域別に陸田保有状況をみると、表一4のとおり「陸田がない」という農家が多い地域の中で県西地域ではこれが

54.8%と低く、かわって「陸田がある」という農家が45.2%と、地域別に比べ高くなっている。

表二 地域別陸田の保有状況

区分	調査対象農家数		陸田がない		陸田がある	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
県計	18031	100.0%	14029	77.8%	4002	22.2%
県北地域	6751	100.0	5735	85.0	1016	15.0
鹿行地域	2198	100.0	1894	86.2	304	13.8
県南地域	4907	100.0	4112	83.8	795	16.2
県西地域	4175	100.0	2288	54.8	1887	45.2

(2) 「陸田がない」農家について

「陸田がない」という農家の場合、これから陸田を作る希望が「全くない」、「ある」、「米作の条件をみて考える」の3つに分けて聞いてみた。

結果は、「全くない」12977戸(92.5%),「米作の条件をみて考える」692戸(4.9%),「ある」360戸(2.6%)の順となっている。

專業兼業別での志向

專業兼業別でみると、表一5のとおり專業農家では、「全くない」89.6%、「米作の条件をみて考える」が6.9%、「ある」3.5%となり、第1種兼業農家では、「全くない」が89.6%、「米作の条件をみて考える」6.8%、「ある」3.6%また、第2種兼業農家では、「全くない」95.4%、「米作の条件をみて考える」3.0%、「ある」1.6%となっている。

これを見ると将来陸田を作る意志がない農家が約9割を占めている反面、陸田を作る意志がある農家は少なくなっている。

■ 調査から

表－5 陸田をこれから作る希望について

区 分	調査対象農家数		全 く ない		あ る		米作の条件をみて考える	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
県 計	14029戸	100.0%	12977戸	92.5%	360戸	2.6%	692戸	4.9%
専 業 農 家	2601	100.0	2332	89.6	90	3.5	179	6.9
第一種兼業農家	4371	100.0	3916	89.6	156	3.6	299	6.8
第二種兼業農家	7057	100.0	6729	95.4	114	1.6	214	3.0

地域別での志向

地域別にみても、表－6のとおり、全体的に同じような

傾向を示しており、米作の条件をみて陸田を将来作る考え

をもっている農家は約5%ぐらいみられる程度である。

表－6 地域別での志向

区 分	調査対象農家数		全 く ない		あ る		米作の条件をみて考える	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
県 計	14029戸	100.0%	12977戸	92.5%	360戸	2.6%	692戸	4.9%
県 北 地 域	5735	100.0	5319	92.7	146	2.6	270	4.7
鹿 行 地 域	1894	100.0	1757	92.8	36	1.9	101	5.3
県 南 地 域	4112	100.0	3817	92.8	100	2.4	195	4.8
県 西 地 域	2288	100.0	2084	91.1	78	3.4	126	5.5

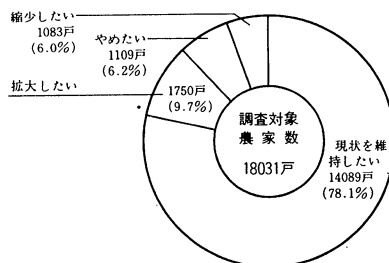
(3) 「陸田がある」農家について

「陸田がある」という農家の場合、「昭和47年以前」「昭和48年～49年」「昭和50年～51年」「昭和52年以降」の4つに分けて、それぞれの年の開田面積と開田農家数について聞いてみた。

結果は、県全体の傾向をみてみると「昭和47年以前」の開田農家数2529戸、開田面積が97497アールで一番多く、「昭和48年以降」からは、年々減少している。また、「昭和47年以前」の開田と「昭和52年以降」の開田を比較すると、「昭和52年以降」の開田農家数は17.6%と低く、開田面積でも12.9%ともっとも低くなっている。

という農家も含めて全体の9割近くを占め、将来も引続き農業を経営していきたいという意識が強い。これに対し、「縮小したい」と「やめたい」という農家の割合は小さくなっている。

図－4 農業継続の意志



3. 農業継続の意志について

(1) 全県の傾向

将来も、農業を続けたいと思うかどうかを「現状を維持したい」、「拡大したい」、「縮小したい」、「やめたい」の4つに分けて聞いてみた。

結果は、図－4のとおり、「現状を維持したい」14089戸(78.1%)、「拡大したい」1750戸(9.7%)、「やめたい」1109戸(6.2%)、「縮小したい」1083戸(6.0%)となった。

このように現状維持の農家が圧倒的に多く、「拡大したい」

専業兼業別での志向

専業兼業別にみると、専業農家では、「現状を維持したい」が76.3%、「拡大したい」が17.0%、第1種兼業農家では、「現状を維持したい」が79.7%、「拡大したい」11.6%で両者とも県の平均を上回り、農業経営に対する意識が強い。第2種兼業農家では、「拡大したい」農家が5.1%と低く、かわって「縮小したい」7.2%、「やめたい」10.0%と農業経営に対する消極的な農家が多くみられる。

表－7 専業兼業別での志向

区 分	調査対象農家数		現状を維持したい		拡大したい		縮小したい		やめたい	
	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
県 計	18031戸	100.0%	14089戸	78.1%	1750戸	9.7%	1083戸	6.0%	1109戸	6.2%
専 業 農 家	3513	100.0	2680	76.3	598	17.0	140	4.0	95	2.7
第一種兼業農家	6271	100.0	4997	79.7	729	11.6	353	5.6	192	3.1
第二種兼業農家	8247	100.0	6412	77.7	423	5.1	590	7.2	822	10.0

地域別での志向

地域別にみると「現状を維持したい」の割合は、県西地

域が他の地域に比べて、80.0%と高く、低い地域は、75.2%で県南地域となっている。「拡大したい」では、14.2%で

鹿行地域が高く、県北地域の7.2%が低くなっている。また、「縮小したい」は、県北地域の7.1%が高く、県西地域

の4.3%が低い。「やめたい」という農家は、県南地域の7.3%が高く、鹿行地域の5.1%が低くなっている。

表－8 地域別での志向

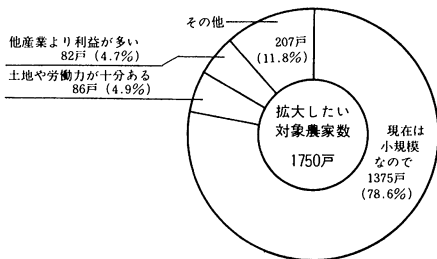
区 分	調査対象農家数	現状を維持したい	拡大したい	縮小したい	やめたい	
県 計	18031戸	100.0%	14089戸 78.1%	1750戸 9.7%	1083戸 6.0%	1109戸 6.2%
県 北 地 域	6751	100.0	5381 79.7	492 7.2	476 7.1	402 6.0
鹿 行 地 域	2198	100.0	1679 76.3	312 14.2	96 4.4	111 5.1
県 南 地 域	4907	100.0	3691 75.2	529 10.8	331 6.7	356 7.3
県 西 地 域	4175	100.0	3338 80.0	417 10.0	180 4.3	240 5.7

(2) 「拡大したい」農家について

どのような理由によって「拡大したい」のかを、「他の産業より利益が多い」、「土地や労働力が十分ある」、「現在は小規模なので」、「その他」の4つに分けて聞いてみた。

結果は、図－5に表わしたように「現在は小規模なので」という農家が、1375戸(78.6%)で最も多く次いで、「その他」207戸(11.8%)、「土地や労働力が十分ある」86戸(4.9%)、「他産業より利益が多い」82戸(4.7%)となっている。

図－5 拡大したい理由



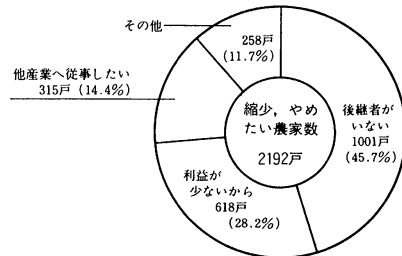
地域別にみると、県西地域に経営規模の拡大の意識が強い。「土地や労働力が十分ある」という農家は、県北地域と県南地域が多く、「他産業より利益が多い」という農家は、県北地域や県南地域に多くなっている。

(3) 「縮小したい」、「やめたい」農家について

どのような理由によって「縮小したい」、「やめたい」のかを「他産業へ従事したい」、「利益が少ないから」、「後継

者がいないから」、「その他」の4つに分けて聞いてみた。

図－6 縮小、やめたい理由



結果は、図－6のとおり「後継者がいないから」による農家が、45.7%で半数近くを占め、次いで、「利益が少ないから」28.2%、「他産業へ従事したい」14.4%、「その他」11.7%となっている。

これを専業兼業別にみると、専業農家では、「後継者がいないから」が56.2%と高く、次いで「利益が少ないから」26.4%、「他産業へ従事したい」は、3.4%となり、第一種兼業農家、第二種兼業農家でも同様な傾向となった。

(4) 「縮小したい」、「やめたい」場合の耕地の利用

「縮小したい」、「やめたい」場合の耕地の利用はどのようにするかを、「売却したい」、「転用したい」、「貸付けたい」、「耕作放棄」の4つに分けて聞いてみた。

結果は、「貸付けたい」という農家が59.0%と多くなっている。

表－8 縮小したい、やめたい場合の耕地について

区 分	調査対象農家数	売却したい	転用したい	貸付けたい	耕作放棄	
県 計	2192戸	100.0%	215戸 9.8%	423戸 19.3%	1293戸 59.0%	261戸 11.9%
専 業 農 家	235	100.0	23 9.8	50 21.3	125 53.2	37 15.7
第一種兼業農家	545	100.0	52 9.6	108 19.8	313 57.4	72 13.2
第二種兼業農家	1412	100.0	140 9.9	265 18.8	855 60.5	152 10.8

(統計課・農林統計)